

土壤医検定試験 1 級合格体験記

井口 義紀*

1 土壤医検定を受けたきっかけ

私は静岡県袋井市にありますが豊田肥料株式会社にて勤めております。弊社は主に肥料・農薬・資材の卸売や直接販売をしており、平成28年3月で創業153年となりました。

私の業務は技術普及であり、具体的には、作物の病害虫診断や栽培アドバイス、新技術の提供（新商品、主に肥料の栽培試験を通して新商品の良さをお客様へご案内する）等の業務をいたしております。

この業界に勤めて7年目となりますが、つくづく感じることは、「農業は経験がものが多い職業である」ということです。

以前このようなことがありました。オクラの生育が悪く、原因を教えてくださいとの要望がありました。私にとっては初めて見る症状なので、まず病気なのか生理障害なのか等、生育不良が起きたとされる原因をいくつか考え、その上で参考文献で同じような症状がないか調べて、なんとか答えを導き出そうとしましたが、結局病気でも、生理障害でもなかったため原因がわかりませんでした。途方に暮れてしまい、上司に相談したところ、症状を見ただけで「根が張っていないため生育不良になっている」と教えて下さいまし

た。そこで根の状態を見たところ、やはり根が張っていませんでした。どうやら土壌が硬かったため根が深く張れない状況にあったようです。その時の私には考えもつかないことでした。上司曰く、「過去に同じような症状を見ていたのでそうではないかと思った。過去の経験から予測がついた」とのことでした。

私は営業を5年程経験してから今の部署へ配属されました。営業をしている時は正直勉強をしている余裕はなく、何か作物障害があれば私が現在所属している部署へ相談にいきました。しかし、現在は私自身がその部署において相談を受ける立場へと変わりました。まだまだ知識・経験不足の私にとって、質問が来るたびにドキっとしてしまうのも事実です。少しでも知識をつけたい、みんなの役に立ちたい、勉強をしたいと考えていた時に、「土壤医検定」という試験があると聞きました。その時はどんな検定なのか分からなかつ



* 豊田肥料株式会社、土壤医

たですが、先輩から土壌や作物について色々と学べるいい機会になるから受けてみたらどうかと提案いただいたので、まず2級から受けることにしました。2級は昨年幸運にも合格でき、今年は1級に挑戦いたしました。

2 土壌医検定研修会について

2級の試験を受ける前に、「土壌診断と作物生育改善」の参考書を見ましたが、かなりのページ数があり、それを全て独学でやるには厳しいと感じ、まず研修会を受けて要点をまとめてから全体的な勉強をする方が効率がいいと考えました。研修会では、参考書の大事な部分を分かりやすくまとめて下さっていましたし、なによりもその道のエキスパートの講師の方が御丁寧に御説明をして下さいました。もちろん、試験対策のための研修会であるのですが、自分がこれから携わるであろう様々な事例（生理障害の判断方法、病気が起こる環境条件、作物別の施肥管理等）についての説明があったので、内容自体にとっても興味がわき、楽しく拝聴することができました。今回の1級受験にあたって、迷わず研修会に参加いたしました。2級の時とはまた違ったより内容の濃い勉強ができ、試験に受かることはもちろんですが、自分の新たな知識がついたことにうれしさを覚えました。

研修会では試験のポイントや、テキストの詳しい解説が聞ける非常によい機会となりますので、ぜひ参加をお勧めいたします。

3 試験対策

(1) 学科・記述試験編

1級の試験は、マーク式と記述式の2つがあり、解答時間は70分です。特に記述式は、問われていることに対して正確な解答が求められるので、1級試験では解くスピードだけ

でなく正確な知識の2つを要求されます。私は、研修会でいただいたテキストを理解できるまでひたすら読み込むという勉強方法をとりました。もちろん、1級受験用の「土壌診断と対策」テキストまで完全にマスターすれば合格にはかなり近づくとお思います。ただ、このテキストを全てマスターするには時間がかかりすぎてしまい、やみくもに覚えても知識が中途半端になってしまうと思い、限られた時間の中で勉強をするならば要点がよくまとめられた研修会テキストをやり込む方がいいと思いました。この研修会テキストをマスターするだけでもかなり力をつくかと思えます。

人間は機械的に覚えたことはすぐに忘れてしまうので、覚えたことを頭に残すために自分の仕事とリンクさせながら覚えました。私の場合、試験勉強自体が今の仕事に直結した内容ばかりであったので、試験とは考えず、これを覚えることで自分のスキルが上がる、あの時のあの症状はこれが原因だったのか、この対策をとることで病気の軽減になるかもしれない、などと思いながら勉強をしたことで知識が身に付き、合格につながったと思います。物事を何かに関連づけて覚えると頭に残りやすいかと思えます。

そして、研修会テキストをマスターしたところで、土壌医検定試験既出問題集をやり込みました。最初は分からない問題ばかりで不安に思うことが多かったですが、「分からなかったところは今の自分が弱いところ。それが分かったのでよかった。」とポジティブに考えるようにして、今度はそこを中心に勉強をし直して、また問題を解くというスタイルで最終的な追い込みをしていきました。過去問題を解いていると、研修会テキストだけでは内容的に足りないところも出てきたので、

その時には1級受験用のテキストを読み、知識を深めていきました。

私が本格的に勉強を始めたのは試験の約2ヶ月前からです。日々の仕事の中でまとまった勉強時間をとることは難しかったので、昼休みや帰宅してから2時間程度毎日勉強を続けました。土壤医検定試験は出題範囲が広く、覚えることは多岐にわたります。最初は勉強をしてもすぐに忘れてしまう日が続き、諦めかけたこともありましたが、「一発合格」を目標としていましたので、諦めずに勉強をした結果、ある時突然覚えたことがスラスラ頭に残るようになりました。諦めず、少しでもいいので毎日継続して勉強をすることで内容がいやでも身に付き、その先に結果が付いてくると感じました。

(2) 業績レポート編

1級試験の最大のポイントは業績レポートです。レポートの配点は25点あり、そのうち、20点以上でないと、例え学科試験で満点をとっても不合格となってしまいます。

私はレポートを作成する上で、一連の流れをつくってレポート作成することを心掛けました。①その物事の実践に至った背景 ②実践方法 ③実践後の結果 ④結果を受けての今後の方針 この4つの流れで作成をいたしました。ただ何かをやっただけでは業績とは言えません。何かを実践して、それを実践したことでどのような結果が得られたのか、そして得られた結果を踏まえて次にどのような対策を講じるべきなのか、この一連の流れが「業績」と言えるのではないのでしょうか。文字制限がある中で、この4つの流れを簡潔か

つ、強調して記載できるかがポイントとなると私は考えてレポート作成をいたしました。また、図や表は文字制限には含まれませんので、それらを活用すると採点者に分かりやすくなると思います。自分だけが分かるレポートではなく、他人が見て分かるレポート作成のためにぜひ図表をご活用下さい。

4 最後に

私は土壤医検定試験を受けたことで、自分がこれから携わっていく物事に対して一から勉強をすることができました。今まで勉強をしたいと思っていてもなかなかできなかったのですが、よくまとまったテキストを使って試験勉強ができたことで土壤や作物について基本的なことを身に付けることができました。事実、試験勉強で得た知識は既に各方面で活用できております。この試験を受けて、そして合格できたことは自分が今後仕事をする上で自信そして励みとなっております。しかし、合格したからといって勉強をしないしているとせっかく得た知識も忘れてしまうので、驕ることなく謙虚に勉強を続けていきたいと思います。

これから土壤医検定を受験される皆様におかれましては、農業分野に関係する仕事、あるいは学校で勉強をなさっている方が多いかと思えます。ぜひ、試験勉強と思わず、自分の知識が1つでも2つでも増えるいい機会と思いながら勉強をして、その先にある「合格」を目指して頑張ってください。

私の合格体験記が少しでも皆様のお役に立てると幸いです。